

福井 発・紙リサイクル共創モデル実験

北陸広域連携を目指して

～地域循環共生社会づくり～



要・福井市ロゴ使用許可申請

2025年 月 日



目次

- ① 啓発活動のストーリーイメージ
- ② 啓発活動の多様な協働体制イメージ
- ③ 福井市の強みを生かした循環モデル
- ④ 当面の啓発活動イメージ「雑がみさまを探せ！」を軸に
- ⑤ 福井市 第4次 環境基本計画との親和性
- ⑥ 福井県 環境基本計画との親和性
- ⑦ 期待される成果イメージ
- ⑧ 本提案への思い
- ⑨ 将来的な啓発活動の広域展開への期待

(参考)

- ・ 雑がみさまを探せ！（雑がみ回収促進社会実験）
- ・ 紙リサイクルの重要性
- ・ 紙リサイクルとSDGs
- ・ Towards 2030 & Beyond ・ 古紙センターPDCA

1. 啓発活動のストーリーイメージ

全国各自治体では、ゴミ焼却施設の更新・統合や最終処分場キャパの課題が顕在化しつつあり、**資源循環型モデルの更なる推進**が急務。

本提案は、福井市を始め、**各自治体が有するポテンシャルを最大限**に活かし、**「人・資源・地域経済」が循環**するローカル・エコシステムの推進を目指すもの。

紙リサイクル（特に雑がみ）を中核とした地域共創モデルを推進し、**「環境」「教育」「地域経済」**の3分野を横断的に結び付けることで**「見えるリサイクルの輪」**を目指す。

導入に際しては、**既に福井市が有する**地域資源、制度、ネットワークを**最大限活用**しながら持続可能な紙リサイクルモデルを**「啓発活動」を通じて「可視化」**する。

(起) 紙ごみや雑がみをめぐる課題の再認識

(承) 福井の各自治体がこれまで積み上げてきた積極的施策と地域資源の可視化

(転) それらを有機的に統合し、**地域全体の参加型**で展開する循環モデルづくり

(結) その成果が県民生活の質を高め、**福井ブランドと環境施策の発信力**を高める

1. 啓発活動のストーリーイメージ

資源循環を共創の中核主体として、雑がみ回収・利用を地域コミュニティに根付かせる。

多様な生活者・事業者・行政を結び、その成果と意義を可視化・共有することで、持続可能な地域共生圏の形成を目指す。

3つの軸を有機的に構造化する。

(1) 「見える化」×「つながる化」

自治体や企業、団体との共創事例を公開し、「つながり」の存在を社会に共有。

(2) 参加共感型コミュニケーション

情報の一方通行脱却「わかる・できる・続ける」体験を設計。

(3) 地域コミュニティ内経済・価値の共創

地域の循環共生圏、地域経済や自治体の課題解決と一体化するメッセージを意識。



2. 啓発活動の多様な協働体制イメージ

行政

各市町村（資源リサイクル関連、福祉、教育委員会等）：施策調整、拠点整備、学校授業導入、公益施設運営

教育機関

小中学高、大学（福井大、福井工、福井医療、仁愛短大など）EMS活動、新入生環境授業、ボランティア、PBL型地域参加

福祉・高齢者団体

就労支援B型事業所、社会福祉協議会、老人クラブ等：拠点運営補助、見守り交流

企業・商工会

スーパー、包装印刷、食品、信金、運輸等：店頭広報、ポイント制度連携、雑がみ袋広告、事業系雑がみ回収、SCCI連携

市民団体

PTA、NPO、環境ボランティア：地域拠点協力、イベント運営、住民啓発

メディア・研究機関

地元新聞社、TV、SNS、大学研究室等：広報支援、効果測定、全国展開モデル評価

静脈・製紙産業

周辺エリア内の製紙工場、古紙問屋、回収収集業者：雑がみ受入、回収・品質管理、搬送

スポーツ団体（少年・プロ）

少年野球・サッカー団等：集団回収、資源回収協力、啓発活動、保護者との家庭連携、エリア内のプロ球技チーム連携

需給両業界団体

古紙再生促進センター中部地区委員会北陸分会、全原連北陸ブロック：活動全般支援

3. 福井市の強みを生かした循環モデル

教育都市の力

福井大学や福井工業大学をはじめ教育機関が充実。学生や若者が参画することで、雑がみ循環を次世代教育と結びつけられる。

伝統とものづくり

越前和紙をはじめとする伝統と現代の紙加工業が共存。雑がみ循環を文化と産業の架け橋として位置づけられる強みがある。

広域展開の拠点性

北陸新幹線延伸により交流人口が拡大。福井市発のモデルは県内外へ波及し、北陸地域全体の循環共生の先導役となる。

多様な市民活動の蓄積

環境保全・清掃・地域イベントなど多彩な市民活動が根づいており、分別行動や地域参加型の仕組みづくりに対する受容性が高い。共生社会の担い手づくりに活かせる。



県都として行政中枢機能を誇り、全県展開の基盤である福井市

福井市は「人と自然が調和する持続可能な都市」を掲げ、第4次環境基本計画において循環型社会や脱炭素の実現を明確に示している。雑がみ掘り起こしを核とする地域循環共生圏モデルは、単なるごみ減量策にとどまらず、市民が誇る「環境文化都市ふくい」の理念を体現する取組となる。同市周辺は古くから和紙など紙関連産業を育み、教育都市として大学・研究機関が集積してきた歴史を有する。こうした土壌は紙資源循環の先進モデルを展開する上で強みである。さらに恐竜博物館やフェニックス祭りなど、市民参加型の文化資源やイベントを有しており、啓発や世代横断の学びの場として活用できる。北陸新幹線延伸により、交流人口拡大と地域ブランド力向上の契機に、雑がみ循環を核とした共生モデルを打ち出すことは、福井市の未来像と親和性を持つ。

本モデルでは、回収された雑がみを地域内で選別・加工し、連携可能な製紙工場にて再資源化する“紙資源の地産地消”を再確認することで、輸送コストや環境負荷の軽減を図ると同時に地域内経済の循環性を高める仕組みを充実化し、地方都市に於ける全国のベンチマーク化を志す。

新規設備や格段の追加投資を前提とするのではなく、すでに地元地域が有する地域資源、制度、ネットワークを最大限活用しながら、段階的かつ持続可能に展開する「**啓発モデル**」を可視化。

4. 当面の啓発活動イメージ「雑がみ様を探せ！」を軸に（2025～26年度）

雑がみ啓発と学校教育との接続

市内小中学校において紙リサイクルに関する啓発活動「雑がみさまを探せ！」を通じた出前授業やワークショップを実施。
「子供から家庭を変える、社会を変える」児童生徒や保護者の家庭内分別を促進。

広域エリア内の製紙工場群との連携

福井市を核とする周辺域内には紙リサイクルの地域内処理・利用が可能な製紙工場の存在があり、それらとの連携を通じた、紙資源リサイクルの地産地消を更に推進。

スポーツ団体との連携

スポーツ少年団の資源回収活動協力、運動と公共活動の融合を図る。集団回収活動の活性化、世代間交流の機会にも繋げる。また道内のJ、各プロ球技チームとの連携を通じ、試合時の「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーンを図る。

市イベント・施設に於ける啓発活動

多くの県民が参加する市民イベント、祭り、環境フェアやリサイクルプラザ、公民館などを通じた「雑がみさまを探せ！」啓発を通じ、一人ひとりの参画意識醸成を図る。

大学生ボランティアとの連携

市内の大学環境活動団体などを通じた、学生を募集、「雑がみさまを探せ！」運動の支援を通じた持続的な啓発活動の組織力強化、学生自身への社会課題解決体験のきっかけとする。

地元企業との連携による資源循環

大規模商業施設、商店街店舗を通じた、地域ポイント利用・認証制度（「ふくいリサイクル応援店」等）による消費者との接点強化を推進。企業の紙袋への「雑がみ回収に利用」を訴求する表示協力。

5. 福井市 第4次環境基本計画（2021～2025）との親和性

資源循環の推進との親和性

市環境基本計画は「循環型社会の形成」を柱とし、資源の有効活用と廃棄物削減を掲げている。雑がみを含む紙資源の掘り起こしは、未利用資源を循環に戻す取組として、特に家庭ごみ中に残存する紙類の分別徹底は循環利用率を高め、廃棄物政策における優先課題の実現を後押しする点で親和性がある。

協働、共創向上のきっかけに

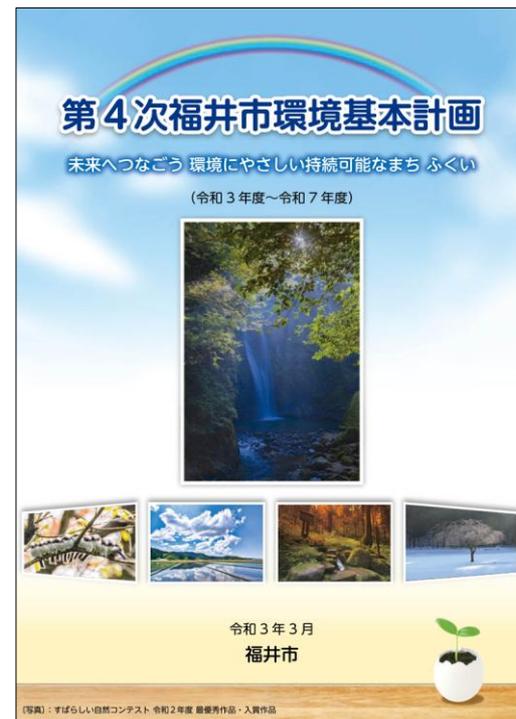
市計画は「市民・事業者・行政の協働による環境まちづくり」を重要方針として掲げている。本啓発モデルは、多様な主体が参加できる仕組みであり、市民の行動変容を促す契機となる。分別回収イベントを通じ、地域交流や教育活動と連動可能。多世代・多主体参加による活動は、地域社会の共創基盤を形成し得る。

温室効果ガス排出削減

福井市はゼロカーボンシティを表明し、2030年までのGHG削減を環境基本計画に明記している。雑がみの回収・再資源化を強化することは、可燃ごみ焼却量を抑制し、CO₂排出削減に寄与、また回収資源を地場製紙工場に供給することで、地産地消の循環によるカーボンフットプリント低減も期待できる。

環境教育・啓発を後押し

市計画は「環境教育・普及啓発の推進」を柱に、次世代育成と市民意識の向上を狙う。本啓発モデルは、学校教育や子どもエコクラブの活動を通じ、環境学習の機会を提供する。また、地域イベントや広報キャンペーンと連携し、日常生活の分別行動を自然に定着させることも可能。環境教材やキャラクター展開との連携により、啓発強化に有効。



6. 福井県 第3次 環境基本計画（2023～2027）との親和性

循環型社会の推進

福井県環境基本計画（2023年3月改定）は「循環型社会の形成」を重要施策として掲げ、廃棄物削減と資源循環の推進に注力している。紙資源リサイクルの強化を含む県の重点施策と、雑がみを掘り起こす地域循環共生圏の取組は、資源の未利用部分を再資源化する点で理念的にも具体的に整合し、親和性をもつ。

生物多様性、自然共生

県計画は、「生物多様性地域戦略」や「自然共生社会」の推進を法定計画として組み込み、地域の自然資源の持続的な活用と保全にも配慮している。紙資源の循環を軸とした地域内資源の活用は、資源採取による環境負荷の低減や森林保全につながり、循環モデルを通じて自然との調和を促す点で、自然共生の観点とも整合性を持つ。

地球温暖化対策

県計画は「地球環境保全」「温室効果ガス排出削減」を基本理念に据え、2050年カーボンニュートラルに向けた県独自の長期ビジョンと連携しつつ、再エネ導入・省エネ推進を推奨している。雑がみ掘り起こしによる可燃ごみ削減は焼却時のCO₂削減に寄与し、温暖化対策という観点でも、基本理念と親和する施策である。

環境教育、県民参画

県計画は「環境教育等推進行動計画」や地域参画型施策を法定計画として位置づけ、県民・事業者・行政の協働を重視。本啓発モデルを学校教育や地域イベントに組み込むことで、住民や学校・事業者が実践的に参加できる環境学習の場を創出、環境意識と行動の醸成にも直結する取り組みとして、県の教育・啓発戦略と連携可能である。



7. 期待される成果イメージ（順不同）

- ・ 雑がみ回収量の増加、可燃ごみに占める紙ごみ比率減少
- ・ 紙ごみによるCO2排出削減効果の定量化
- ・ 域内製紙工場とのマッチングによる資源地産地消モデルの加速
- ・ 小中高校生・大学生・高齢者・地域住民のリサイクル意識向上と世代間交流の促進
- ・ 高齢者との交流機会創出による地域コミュニティの活性化、孤立防止
- ・ 障害者の地域参画による共生社会モデルの実証と福祉的就労の場の創出
- ・ 紙リサイクル業界における次世代担い手の掘り起こしと職業理解の深化
- ・ 行政・住民・業界がともに成果を実感できる、参加型の循環型地域社会モデルの形成
- ・ 近隣自治体、南東北各県、更に全国への波及効果 等々

↓ 5%

燃えるごみ量削減

「雑がみさまを探せ！」
を通じた分別底上げ

↓ 5%

ごみ排出量削減

1人1日当たりの
ごみ排出量削減

↓ 15%

紙ごみ比率減少

家庭系の燃えるごみに
占める紙ごみの比率減少

1000+

啓発参加者数

多世代の市民参加による
コミュニティ活性化

8. 本提案への思い

これら一連の対策は、福井市を始めとした「先進的な施策を展開」してきた**各自治体**において、**すでに個別には推進されてきた**要素である。

今回の**啓発モデルづくり**では、それらを有機的に結合し、回収・啓発・再資源化・教育・経済の各分野が一体的に連動する**“リサイクルの輪”**として、**県民に視覚的・体感的に可視化される仕組み**を目指したい。

これにより、県民一人ひとりが**地域循環への参画を一層、理解・実感**でき、**長年積み重ねてきた資源循環の取り組みが、より広く認知**され、成果として花開くことが望まれる。

SDGs未来都市、ゼロカーボンシティ宣言都市を、有する福井県において、紙ごみを中心とした可燃ごみ削減の実践は、温室効果ガス削減や持続可能なまちづくりの成果指標とも直結するものであり、**地方自治体の環境政策の模範事例**として、他自治体に発信されることを期待する。

9. 将来的な啓発活動の広域展開への期待

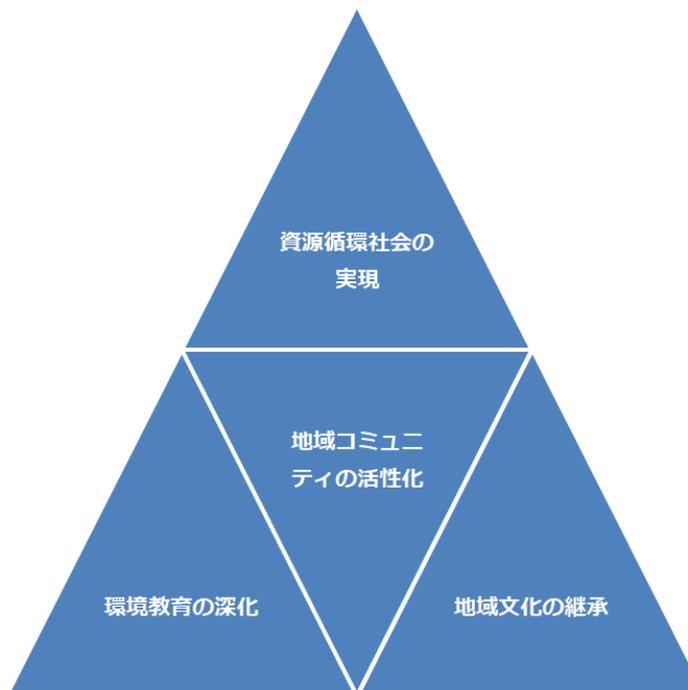
福井市での「雑がみさまを探せ！」を通じた啓発モデルは、段階的に広域連携の展開が可能なスケラブル（拡張可能性）構造を有する。

まず2025～27年度に福井市で実証フェーズの啓発活動はじめ、諸課題の整理を実施し、成果を蓄積。

2028年度以降には、人口構成、地理構造、リサイクルインフラの観点で本モデルとの親和性を有し、また地産地消型の紙リサイクルが成立しやすい環境にある、近郊都市（坂井市、越前市、鯖江市）などの中核都市への波及、福井市モデルの拡大フェーズ。

以後、更に福井エリア全体へと拡大し、2030年頃には広域環境政策への反映を目指し、同様のモデル実験を検討する北陸エリアの他県との広域展開を通じて「北陸・雑がみ資源循環ネットワーク」を念頭に置いた、資源リサイクルの全体最適化活動なども視野に入れたい。

(参考) 紙リサイクルの重要性



紙リサイクル、とりわけ家庭や地域から排出される「雑がみ」は、その性質上、行政・業者・市民の協働によってのみ更なる分別と回収が可能となる分野。

また、資源循環・地域交流・環境教育・福祉・社会包摂といった複数の公共的価値を同時に実現できる特性を持ち、地域循環共生社会の実装モデルとして即効性が期待される領域。

(参考) 紙リサイクルと SDGs

SDGs・紙のリサイクルが果たすべき役割

(2022年制定)



4 質の高い教育をみんなに

■紙のリサイクルの役割

⇒紙の再生品の利用、リサイクルを学べる教育の機会を提供する



11 住み続けられるまちづくりを

■紙のリサイクルの役割

⇒使用済の紙を分別して再利用を図り、資源の有効活用を図る



12 つくる責任 つかう責任

■紙のリサイクルの役割

⇒製紙業界のリサイクル可能な商品開発の推進に貢献する
⇒消費者の持続可能な社会形成への参画意識を醸成する



13 気候変動に具体的な対策を

■紙のリサイクルの役割

⇒ごみの資源化による脱炭素社会の実現に貢献する



15 陸の豊かさも守ろう

■紙のリサイクルの役割

⇒森林資源の持続可能な利用に貢献する



17 パートナリシップで目標を達成しよう

■紙のリサイクルの役割

⇒多様なステークホルダーが連携し、持続可能な社会を実現する

日本の紙リサイクルは国民の分別意識の高さや善意に支えられ、また長年にわたる関係者の努力の結果、資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成にも大切な役割を果たしてきた。

当センターは、消費者や事業者を始めとした紙リサイクルに関わる多様なステークホルダーの皆様とともに、広報啓発、調査研究等の事業を通じた古紙の回収や利用の促進に向けた約半世紀弱の歴史を積み重ねている。

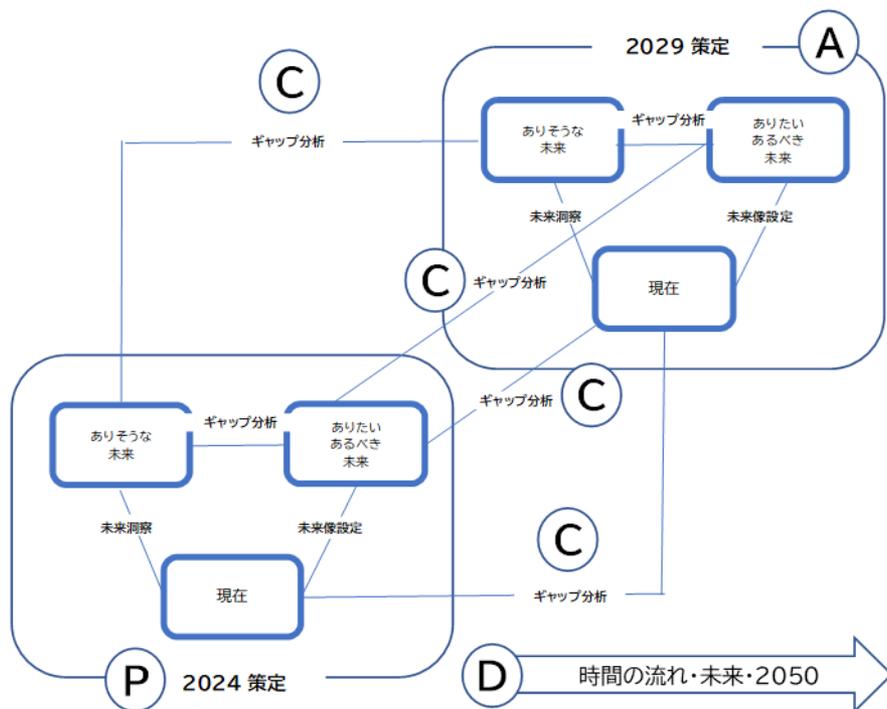
時代背景や社会が変化してきた現在も変わらず、むしろ様々な社会課題が深刻化し、国際社会がSDGs（持続可能な開発目標）の達成など持続可能な社会の実現を目指す中、原点に立ち返ったセンター活動がより一層重要になると考える。

当センターは創立半世紀の節目に向け、活動を支えていただいている皆様とともに、まずは紙リサイクルとSDGsとの関連性を再確認することを2022年にスタートした。今後も多様な立場の方々との共通言語ともいえるSDGsを通じて、小さな連携の積み重ねを大きな力に繋げ、紙リサイクルの更なる発展を目指す。



(古紙センターSDGsレポート)

(参考) Towards 2030 & Beyond・古紙再生促進センターPDCA



当センターは創立半世紀を迎えたが、その節目に当たり多くの関係者の方々から寄せられた「20」の中長期課題（サステナブルチャレンジ2050・共創共生）をお示しした。本年度から、一連の課題対応に向けての具体的な対策や、新たな試みを開始するに当たり、ロードマップイメージである「Towards 2030 & Beyond」を策定した。

様々な社会課題解決に向けた布石は2030年までがラストチャンスであり、その影響が未来の可能性を左右すると言われる時代にある中で、環境・経済・社会側面の統合的向上や、リサイクルに関わるマルチステークホルダーとのパートナーシップを念頭に置いた事業を通じて、循環型社会形成に関する連携・協働のつなぎ手としての、更なる努力が当センターにも求められている。

今後の課題対応については需給両業界の協働に加えて、これまで以上に広く、紙リサイクルに関わるステークホルダーが、改善できる技術や意識改革を総動員した、統合的なシナジーや全体最適を議論すべき時期にある。



「サステナブルチャレンジ 2050・共創共生」



「Towards 2030 & Beyond」



「創立 50 周年記念誌」

当面の啓発活動・検討についての「一例」（順不同）

本モデルの定着化に向けた**啓発実験事業** 「雑がみさまを探せ！」を軸に（2025年～2026年）

- ・市内大学生の啓発ボランティア確保
福井大学、福井工業大学、福井医療大学、仁愛女子短期大学等の啓発ボランティア確保。
「雑がみさまを探せ！」支援を通じた、継続・持続的な啓発組織力強化、学生自身の社会課題、解決体験のきっかけとする試み。（仮称）紙リサイクルアンバサダー制度、認定証発行
- ・各大学EMS（ISO14001）、環境サークルとの連携
新入生への啓発授業機会、学園祭でのブース出展、継続的な啓発掲示、福井大学「Together」「Palette」
- ・福井市との啓発協定締結、支所・公民館等での「雑がみさまを探せ！」啓発、団体連携、キャラクターコラボレーション（リサイクル戦隊・ワケルンジャー x 雑がみさま）
- ・市内小学校に於ける「雑がみさまを探せ！」啓発実験、回収体験
- ・「こどもエコクラブ」活動との連携（環境ふくい推進協議会・県環境政策課）、「雑がみ様を探せ！」啓発
- ・「雑がみさまを探せ！」回収啓発ボックス寄贈・設置実験（市内の小学校、支所・公民館、図書館、リサイクルプラザ、商業施設（ドラッグ、量販、ホームセンター、スーパー等）
- ・福井市と地域連携協定を締結中の市内大学との組織的連携検討
- ・福井商工会議所、JC、女性会との連携、関連企業先での継続的な「ローテーション」回収運動
- ・環境団体連携（ふくい環境ネットワーク、くらしと環境をよくする会、こどもエコクラブ等）
- ・福井ブローウィンズ(B)、福井ユナイテッド（北信越L）、福井ワイルドドラプターズ（独立BC）、北陸電力ブルーサンダー(H)、等の地域貢献連携、試合会場での「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーン
- ・福井市、及び関連エリア内のSDGs・環境フォーラム連携、公開授業提供、WS、市内イベントでの「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーン（福井市環境フェア、ふるさと環境フェア、くらしと環境をよくする会・街頭啓発、福井市主催のエコイベント、クリーンアップ、親子向け環境科学教室、再エネフォーラム等々……………

キャラクター コラボレーションイメージ



福井市 ごみ分別啓発 リサイクル戦隊「ワケルンジャー」

要・福井市使用許可申請